

1) 「文化芸術のまちづくり10年ビジョン～新しい日常に向けた改訂～(以降、リビジョンという)」を作るに至った経緯と現状の課題

- ① 現行の「文化芸術のまちづくり10年ビジョン(以降、ビジョンという)」は、令和2年度(令和3年3月末)でその期間を終了しており、書面上(対外的)には遂行すべきビジョンがない状態である
- ② 市の方針(副市長からの指示)で、一旦現行の計画を延長する形をとり、改めて時間をおいて計策策定を行うことで決定した
- ③ ビジョンは新型コロナウイルス感染症等の影響は想定されていないため、それぞれの事業を行う視点等に、新しい日常への対応が不十分なものもある
- ④ 条例を含めて本市の文化芸術の対象分野が文化庁のそれに比べて狭く、一部時代のニーズに対応できていない傾向がある

2) リビジョンを作る理由とその作成方針

- ① 現行のビジョンを延長したことがわかる情報を市民等に示す必要がある
- ② 次期ビジョンは、宗像ユリックスの次の指定管理期間(第6期=R8.4月～R12.3月)を意識し、令和7年4月から運用を開始する(このため策定作業期間はR5-6年度を想定)
- ③ リビジョンについては計画の策定ではないため、一般的な計画策定時のような合意形成手順(パブリックコメントを含む)を行わず、あくまでも「後期ビジョンの補足(または追加)資料」という形をとる
- ④ ③ではあるが、市民文化・芸術活動審議会ですっかりと議論する。審議会は、市が提案してきたもの(運用案=アクションプラン)に対して、「諮問」や「アドバイス」をするという立場となり、「決定」という責任のある関わり方はしない
- ⑤ リビジョンの運用目標ある「文化芸術の範囲の拡大」「新しい日常への対応」「アクションプラン方式による計画の運用」については、全て次期計画策定及び条例改正にむけた試験運用であり、その評価を次期計画策定時の参考とする
- ⑥ リビジョンは事実上アクションプランが本体であるため、その見直しは適宜行う。当然ながら審議会からの意見を可能な限り速やかに反映し、市としてはスピード感のあるプランの遂行を目指す